Jミルク需給短信【11月】

2026年11月12日　≪公表用≫　

お知らせ：次回発信日は11月19日週報（予定）

Jミルクが2026年10月2日に公表した「需給見通し（※2026年7月迄実績）」の予測値と直近の実績値（牛乳乳製品統計）をグラフ化しています。
「牛乳乳製品統計（農林水産省）」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

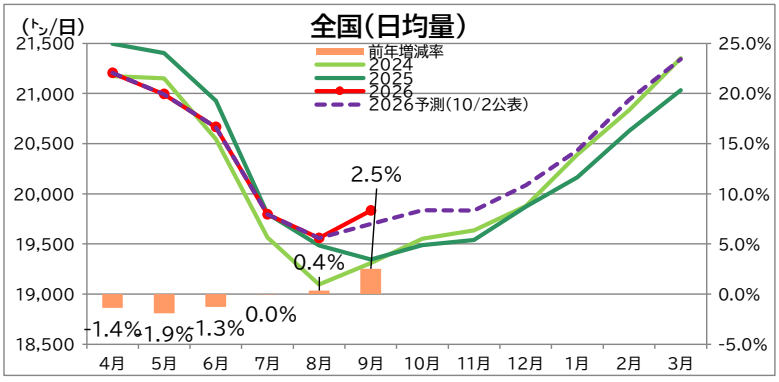
【9月の統計実績】

- **生乳生産量**
  東日本を中心に天候不順が続き暑熱の影響が限定的となる中で、全国の生産量は前年同月比＋2.5%（日均量、以下同）と、2カ月連続で前年水準を上回った。地域別では、北海道が＋2.7%と3カ月連続で前年水準を上回り、都府県は＋2.3%と2カ月連続で前年水準を上回った。指定団体受託乳量（速報）は、北海道（ホクレン）では7月下旬から10月下旬まで10旬連続で前年水準を上回った。都府県でも東日本を中心に乳量が増加傾向で推移していたが、10月上旬は＋0.1%とほぼ前年水準並みに落ち着き10月中旬・下旬は2旬連続で前年水準を下回った。
- **牛乳等生産量**
  牛乳の生産量は、前年同月比▲3.1%と14カ月連続で前年水準を下回り、前月から減少率が拡大した。牛乳のうち、学乳および業務用を除く牛乳（＝家庭用）は同▲2.7%と4カ月連続で前年水準を下回った。成分調整牛乳は76カ月連続、加工乳および乳飲料は14カ月連続で前年水準を下回っており、牛乳類全体としては14カ月連続で前年割れとなった。一方、発酵乳については、＋2.6%と前月から増加率が縮小したものの、4カ月連続で前年水準を上回った。以上の結果、生乳の飲用等向処理量は、前年同月比▲2.2%と14カ月連続で前年水準を下回った。生乳供給量が前年水準を上回った一方、飲用等向処理量が減少したため、乳製品向け処理量は＋9.0%と3か月連続で前年水準を上回った。
- **乳製品需給**
  脱脂粉乳は、生産量が11.5千㌧（＋17.0%）、推定出回り量は11.2千㌧（＋5.0%）と需要量が供給量を下回った結果、在庫量は前月から約0.3千㌧増加した。月末在庫量は82.2千㌧（＋27.1%）と22カ月連続で前年水準を上回っている。在庫量が70千㌧を上回るのは5か月連続で、80千㌧を上回るのは2カ月連続となる。一方、バターの生産量は5.4千㌧（＋20.9%）、推定出回り量が6.6千㌧（▲4.1%）、輸入売渡数量が0.7千㌧となり、需要量が供給量を上回った結果、在庫量は約0.5千㌧減少して39.0千㌧（＋24.4%）となり、在庫量は25カ月連続で前年水準を上回った。

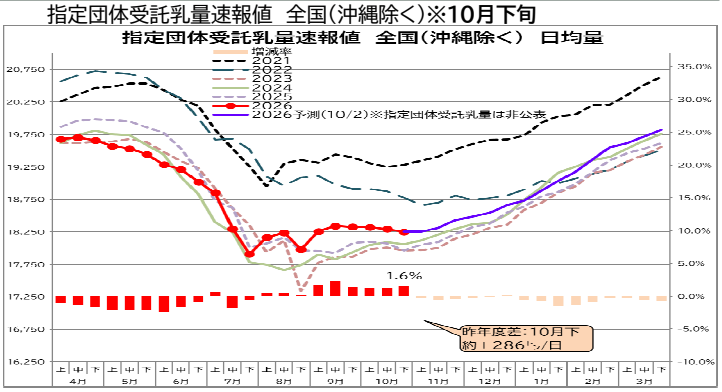
【10月および11/2週の販売動向データ】

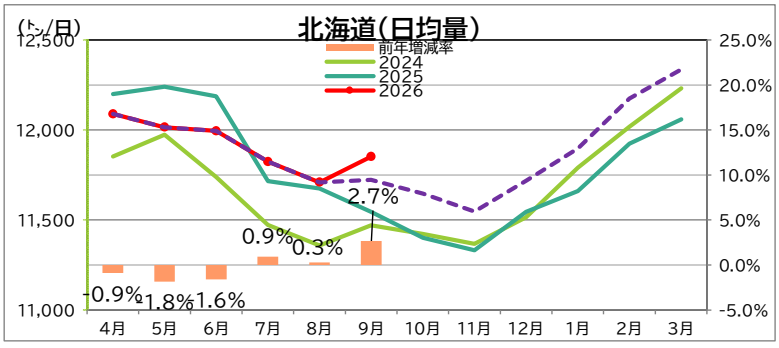
- 10月の牛乳類トータルの販売個数は、5カ月ぶりに前年水準を上回った。内訳を見ると、牛乳単体では2カ月ぶりに前年水準を上回った。直近週（11/2週）では、牛乳類トータルの販売個数が3週ぶりに前年水準を下回った一方、牛乳単体は4週連続で前年水準を上回った。牛乳類の販売個数を地域別に見ると、京浜と東海、近畿が4週連続、北陸が7週連続で前年水準を上回った。
- 発酵乳の11/2週の合計販売数量は、ドリンクタイプが3週連続、個食タイプが3週ぶりに前年水準を下回った一方、大容量タイプが46週連続で前年水準を上回った。この結果、3品目の合計販売個数は5週ぶりに前年水準を下回ったものの、合計販売容量は21週連続で前年水準を上回った。
- 家庭用バターの販売個数は、20週連続で前年水準を上回り、2週連続で前週から増加率が拡大した。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。
（1）9月の生乳生産量は、全国595.0千㌧（前年同月比102.5%）、北海道355.6千㌧（同102.7%）、都府県239.4千㌧（同102.3%）。
（2）10月2日に公表したJミルク予測値（全国591.0千㌧、北海道351.7千㌧、都府県239.3千㌧）との比較は北海道が上振れ、都府県は予測並みだった。
（3）直近の指定団体受託乳量速報値は全国が10月下旬（最新、以下同）で同101.6%、都府県（沖縄除く）が同99.6%、北海道は同103.0%となった。

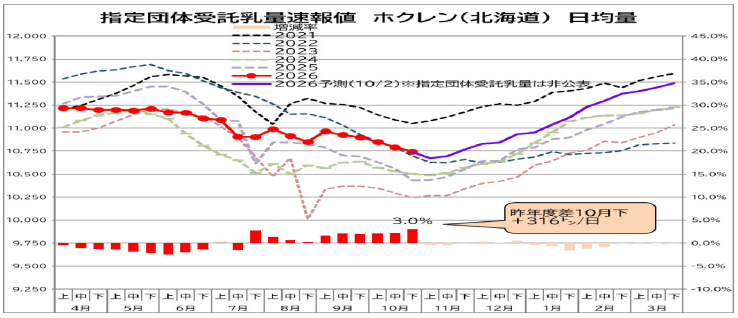


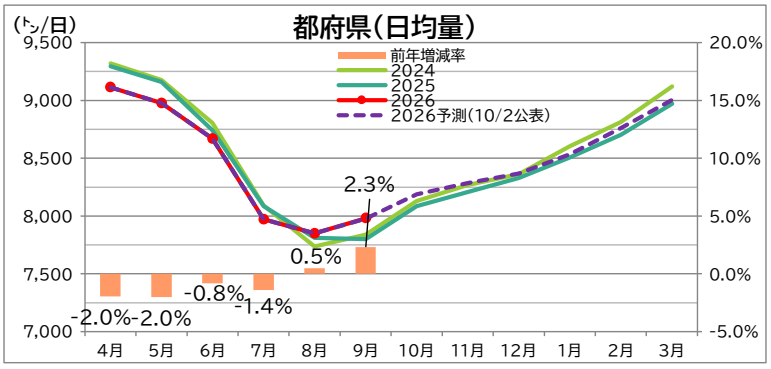
指定団体受託乳量速報値　全国（沖縄除く）※10月下旬



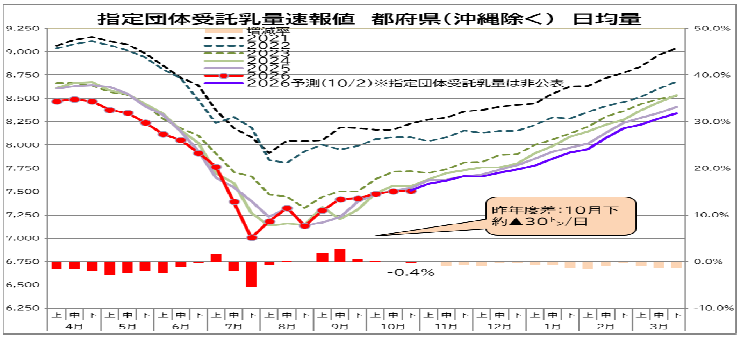


指定団体受託乳量速報値　ホクレン※10月下旬

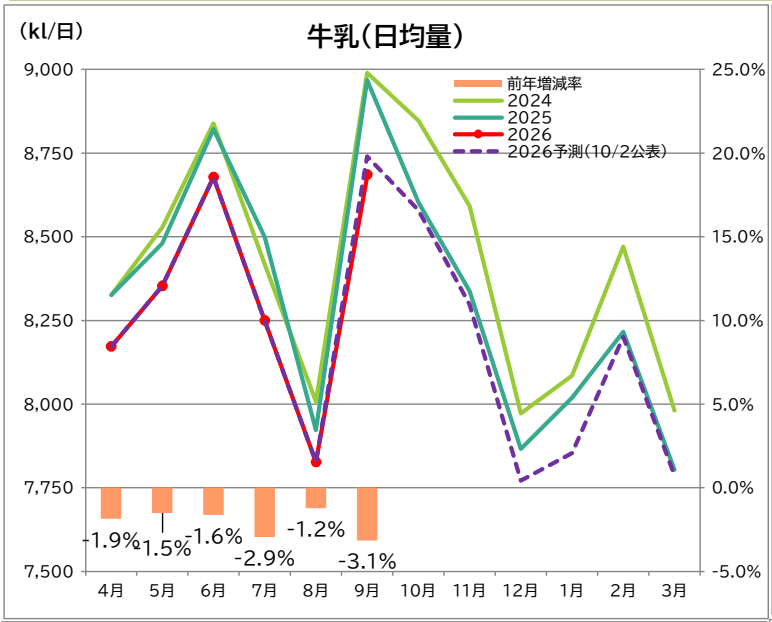


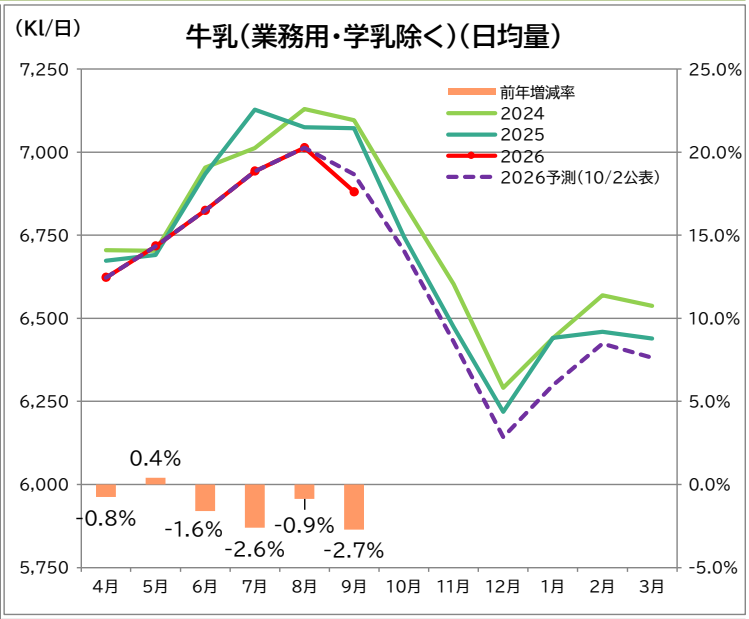


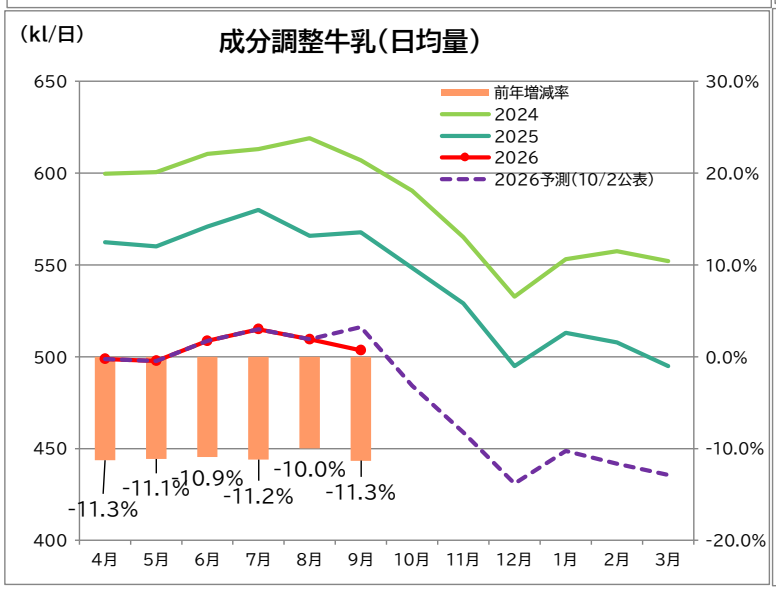
指定団体受託乳量速報値　都府県（沖縄県除く）※10月下旬

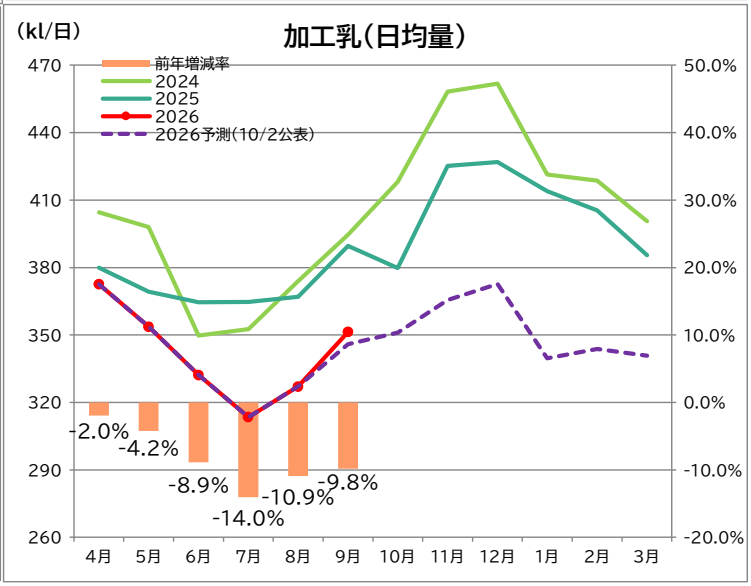


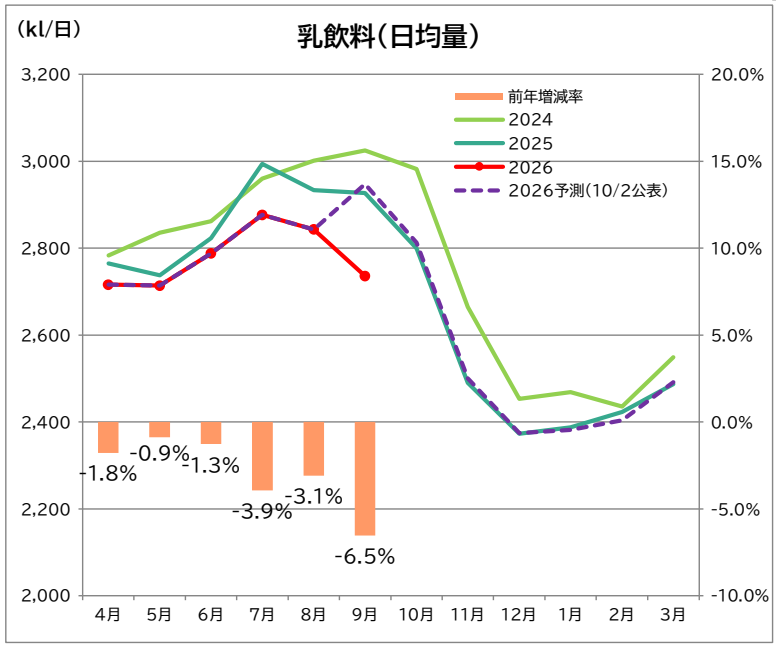
【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。
(1)9月の牛乳等生産量は、牛乳260.6千kl(前年同月比96.9%)、成分調整牛乳15.1千kl(同88.7%)、加工乳10.5千kl(同90.2%)、乳飲料82.1千kl(同93.5%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では368.3千kl(同95.5%)となり、14カ月連続で前年を下回った。
(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同97.3%、「業務用」は同99.6%、「学乳」は92.4%。
(3)はっ酵乳(乳業)は88.1千kl(同102.6%)、はっ酵乳(非乳業:8月実績)は99.0%となった。

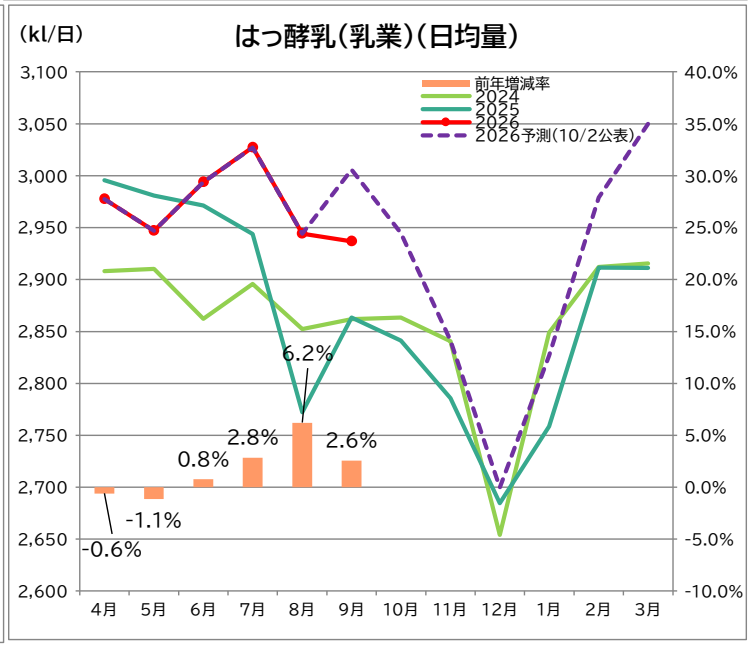






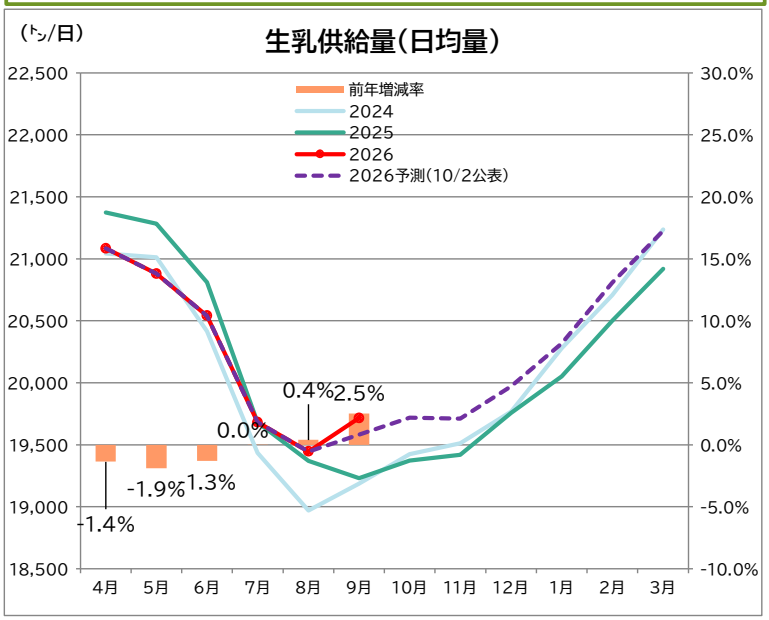


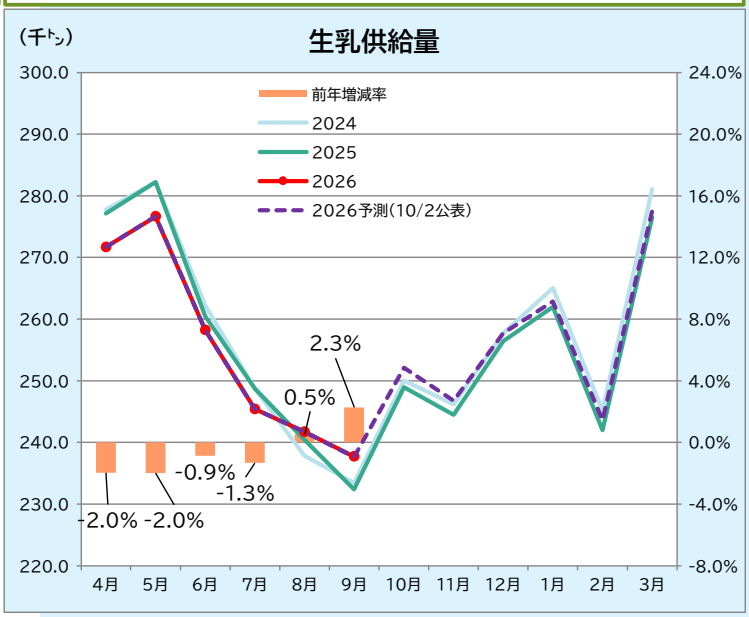


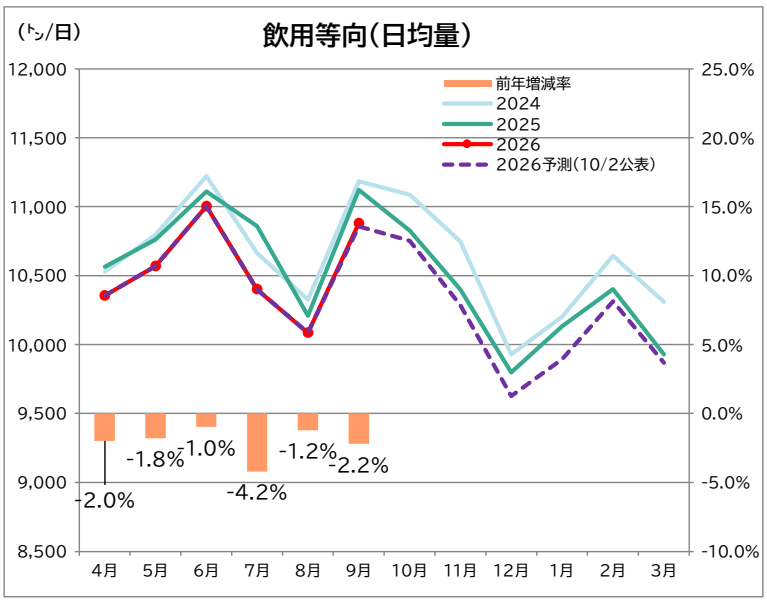


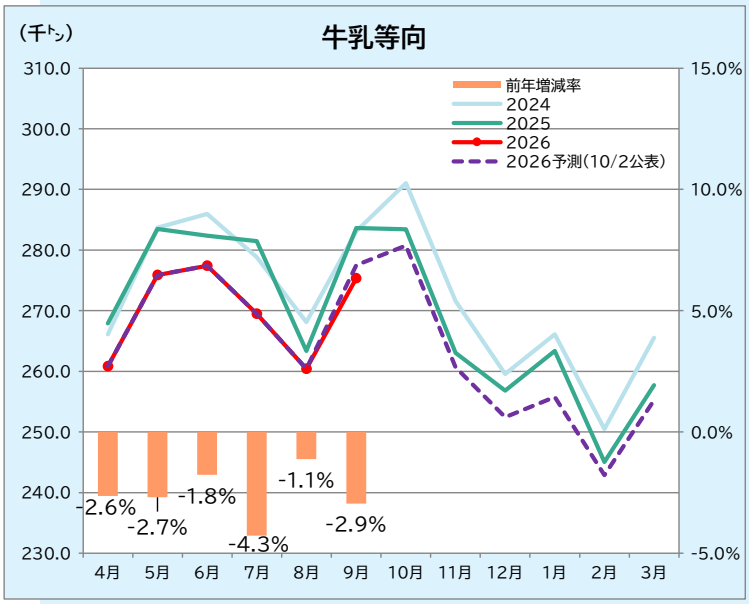
【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。
(1)9月の生乳供給量は591.4ﾄﾝ(前年同月比102.5%)、飲用等326.4千ﾄﾝ(同97.8%)、乳製品向(認定ベース)265.1千ﾄﾝ(同109.0%)。
(2)飲用等向が14か月連続で前年を下回り、生乳供給量が前年超えで推移した結果、乳製品向は3か月連続で前年を上回った。
(3)10月2日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:587.5千ﾄﾝ)は上振れ、飲用等向(予測値:325.7千ﾄﾝ)も上振れ、乳製品向(予測値:261.8千ﾄﾝ)も上振れとなった。

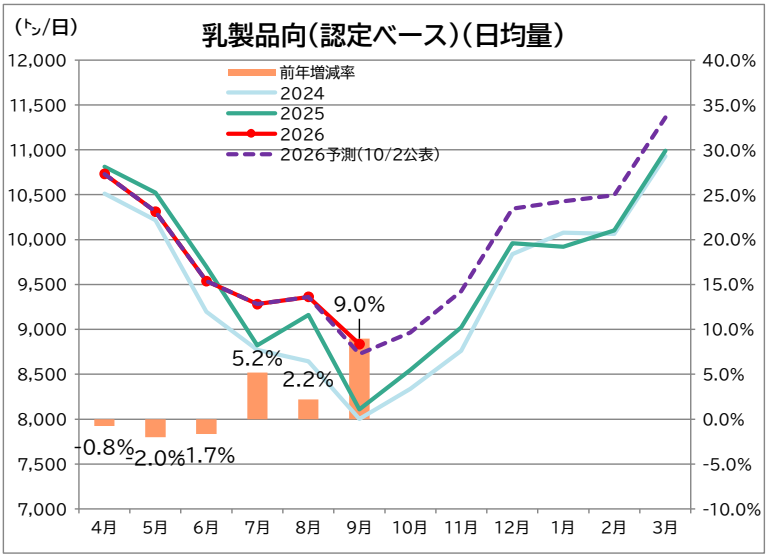
【都府県の生乳需給】
(1)9月は、生乳供給量237.7千ﾄﾝ(前年同月比102.3%)、牛乳等向275.3千ﾄﾝ(同97.1%)。
(2)北海道からの移入量については57.8千ﾄﾝ(同89.3%)と12カ月連続で前年を下回った。
(3)10月2日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:237.6千ﾄﾝ)は予測並み、牛乳等向(予測値:277.5千ﾄﾝ)は下振れ、移入量(予測値:58.5千ﾄﾝ)は下振れとなった。

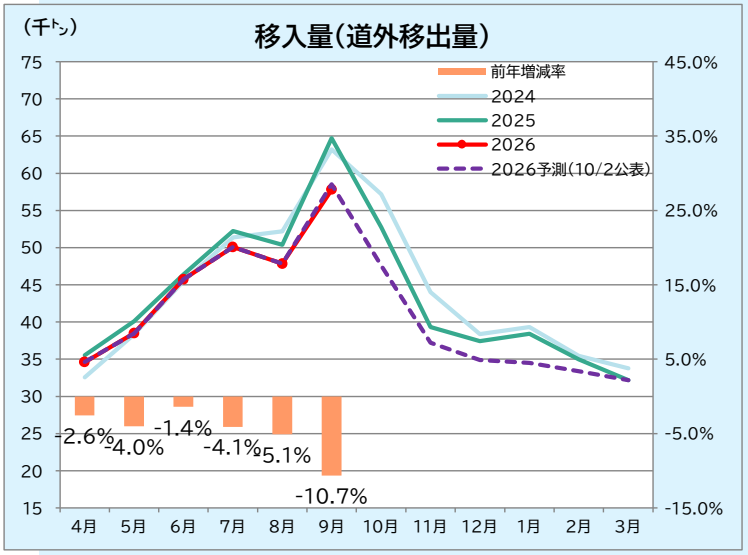




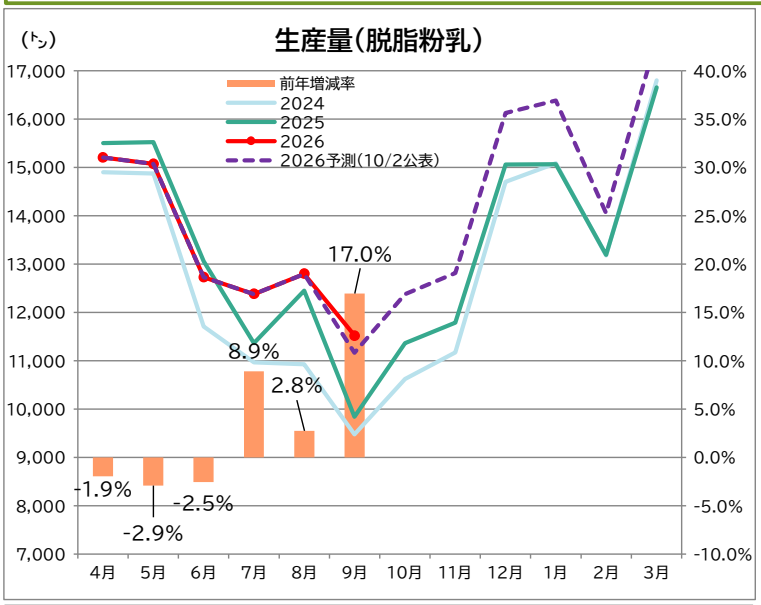


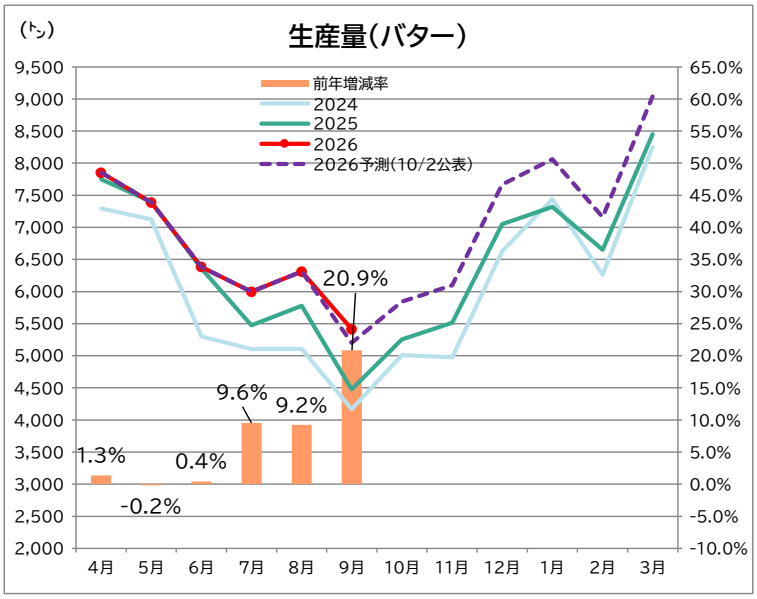


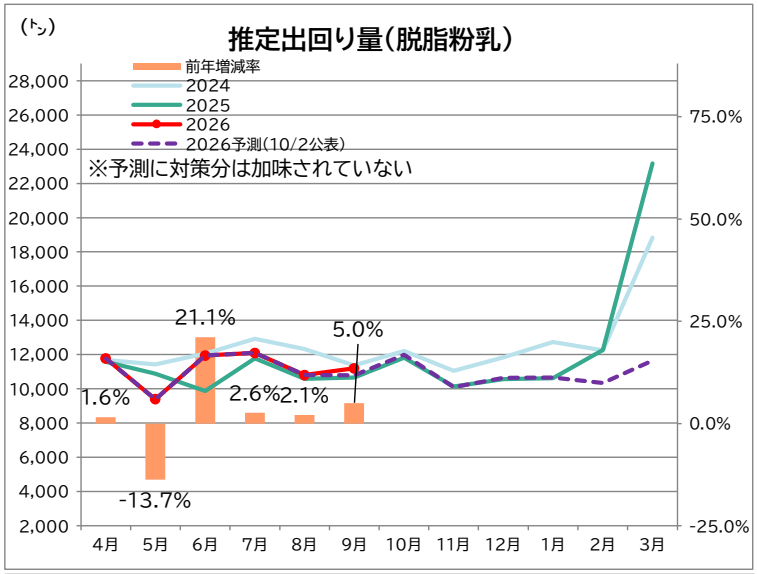


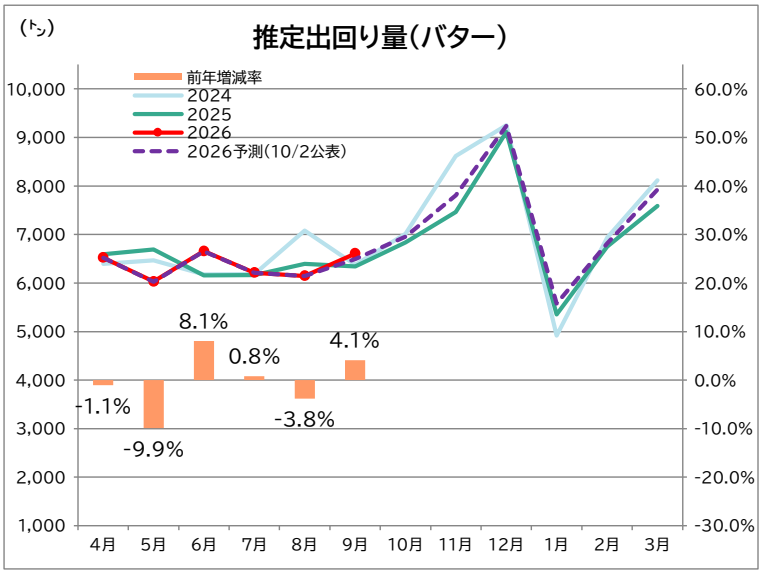


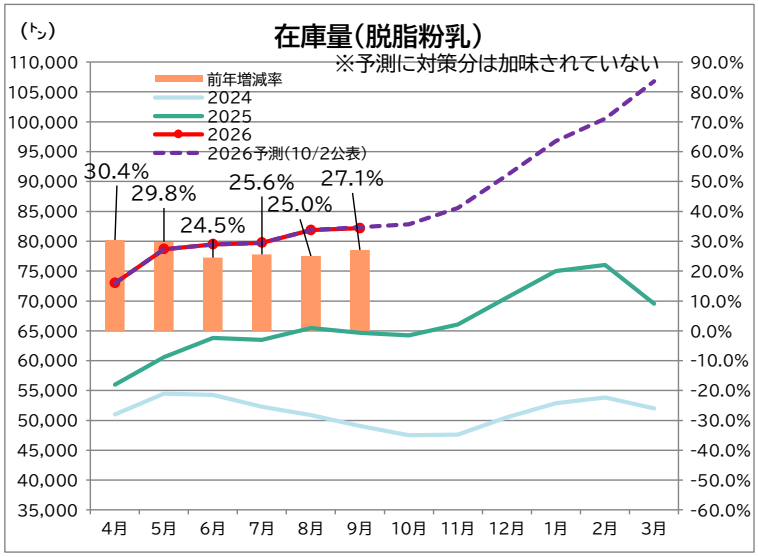
【脱脂粉乳・バターの需給】
(1)脱脂粉乳について9月の生産量は11.5千ﾄﾝ(前年同月117.0%)、推定出回り量は11.2千ﾄﾝ(同105.0%)となった。出回り量が生産量を下回り在庫量は前月から0.3千ﾄﾝ程度増加し、82.2千ﾄﾝ (同127.1%)となった。在庫量は2024年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回りそれ以降、20カ月連続で前年超えで推移している。今年8月には、2023年1月以来43カ月ぶりに8万ﾄﾝ台となった。
※なお、推定出回り量の実績について、需給変動対策による在庫低減対策を差し引いた数量は96.4%。
(2)バターについて、9月の生産量は5.4千ﾄﾝ(同120.9%)、推定出回り量は6.6千ﾄﾝ(同104.1%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約0.7千ﾄﾝ)も考慮すると在庫量は前月から約0.5千ﾄﾝ減少し39.0千ﾄﾝ(同124.4%)となった。在庫量は25カ月連続で前年超え。
➡脱脂粉乳の在庫の積み増しを避けるべく、全国の酪農乳業関係者が一丸となり入口(生産)・出口(需要)対策を進める必要がある。

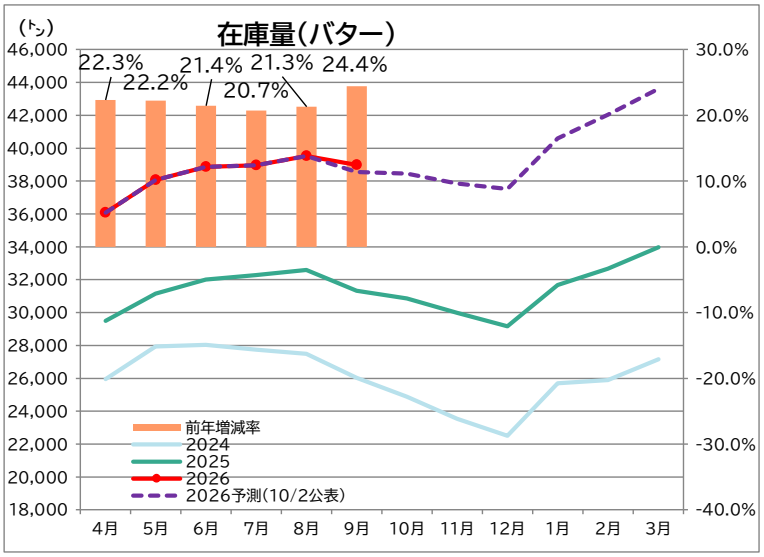












【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績
(1)10月の動向(表①参照)
・販売個数は、牛乳:前年同月比102.3%、成分調整牛乳:同91.0%、加工乳:同88.2%、乳飲料:同96.3%。 牛乳類全体:同100.5%
【参考】2024年9月比…牛乳:99.8%、成分調整牛乳:81.1%、加工乳:77.7%、乳飲料:93.4%(牛乳類トータル:97.3%)
(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)
・直近(11/2週)の販売個数は、牛乳:前年同期比101.4%、成分調整牛乳:同88.3%、加工乳:同88.6%、乳飲料:同96.8%。牛乳類トータルでは同99.7%
出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

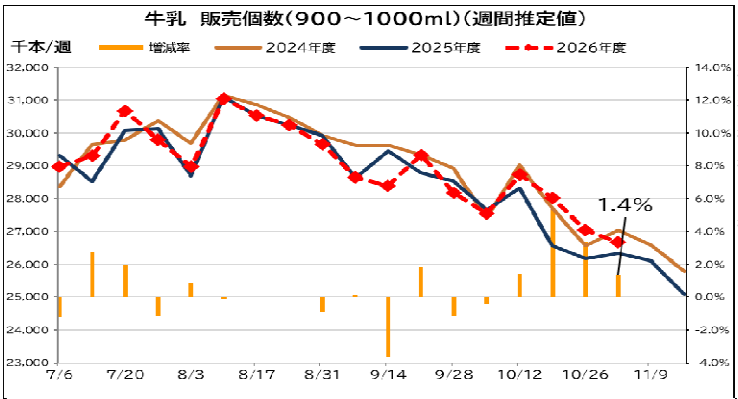
【表① 牛乳類の月別販売動向】 単位:千個、円

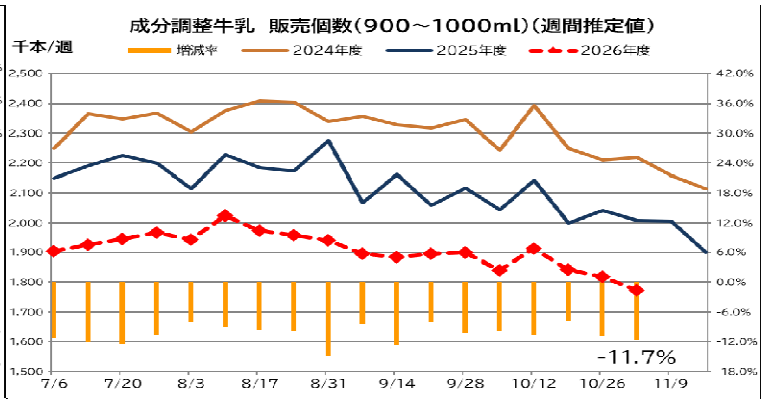
品目	区分	2026/5-	2026/6-	2026/7-	2026/8-	2026/9-	2026/10-	2026/10-2022/10価格差	2026/10-2023/3価格差	2026/10-2023/7価格差	2026/10-2025/7価格差
トータル	販売個数	156,278	153,724	164,178	170,403	156,358	156,846	41.8	26.7	24.9	8.6
	販売個数前年比	102.0	97.7	98.1	98.8	96.8	100.5				
	販売単価	225.2	225.0	225.3	225.8	225.0	224.9				
牛乳	販売個数	123,082	121,120	129,328	134,804	123,391	123,458	43.3	27.0	26.2	8.4
	販売個数前年比	104.1	99.4	99.9	100.4	98.8	102.3				
	販売単価	233.7	233.6	233.9	234.3	233.5	233.5				
成分調整牛乳	販売個数	7,992	7,860	8,424	8,814	8,114	8,221	43.3	27.7	24.1	10.4
	販売個数前年比	86.9	85.6	87.1	91.0	88.3	91.0				
	販売単価	217.8	217.5	218.0	218.4	217.3	216.5				
加工乳	販売個数	1,993	1,936	2,088	2,190	1,961	1,901	46.8	37.1	26.9	15.4
	販売個数前年比	91.5	88.9	90.0	93.7	88.3	88.2				
	販売単価	236.5	237.9	237.1	236.7	235.7	238.7				
乳飲料	販売個数	23,210	22,809	24,338	24,596	22,892	23,266	32.0	21.4	17.7	7.9
	販売個数前年比	98.5	94.6	94.1	93.9	90.7	96.3				
	販売単価	181.3	181.2	180.8	180.9	180.7	181.5				

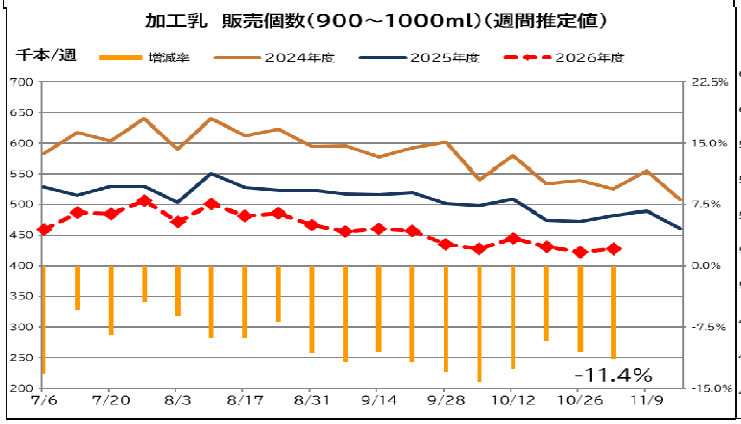
【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

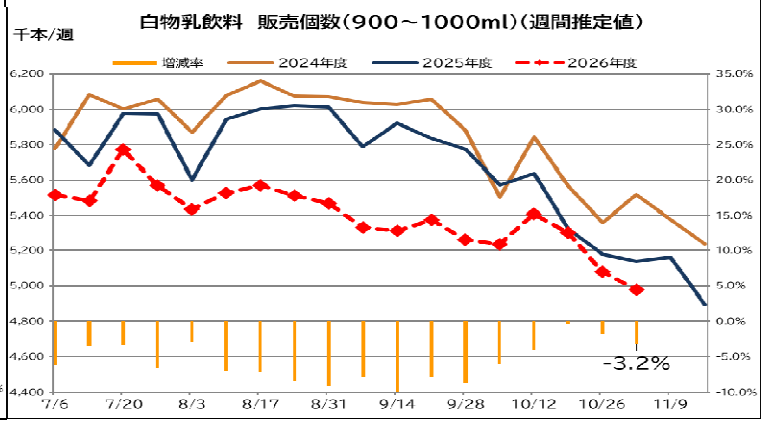
品目	区分	9.14-	9.21-	9.28-	10.5-	10.12-	10.19-	10.26-	11.2-	26.11.2-22.10.24価格差	26.11.2-23.3.20価格差	26.11.2-23.7.24価格差	26.11.2-25.7.21価格差
トータル	販売個数	36,042	37,059	35,772	35,049	36,498	35,585	34,360	33,857	41.3	26.4	24.0	8.0
	販売個数前年比	94.7	99.6	96.9	98.0	99.7	103.6	101.5	99.7				
	販売単価	225.1	224.9	224.6	225.0	225.0	224.9	224.9	224.5				
牛乳	販売個数	28,387	29,331	28,176	27,549	28,732	28,012	27,039	26,680	42.7	26.4	25.2	7.7
	販売個数前年比	96.4	101.9	98.8	99.6	101.4	105.4	103.3	101.4				
	販売単価	233.7	233.3	233.1	233.7	233.5	233.4	233.4	233.0				
成分調整牛乳	販売個数	1,884	1,895	1,898	1,841	1,913	1,842	1,818	1,773	43.7	28.9	24.0	10.8
	販売個数前年比	87.2	92.1	89.7	90.1	89.3	92.2	89.1	88.3				
	販売単価	217.3	217.6	215.7	216.4	216.6	217.1	215.8	217.0				
加工乳	販売個数	460	457	435	427	444	430	422	427	41.1	31.7	21.8	9.5
	販売個数前年比	89.3	88.2	86.9	85.7	87.3	90.8	89.4	88.6				
	販売単価	236.1	235.9	236.9	238.2	238.6	239.0	237.8	235.3				
乳飲料	販売個数	5,311	5,375	5,262	5,233	5,409	5,301	5,080	4,977	30.6	20.7	15.8	6.1
	販売個数前年比	89.7	92.1	91.2	93.9	95.9	99.6	98.1	96.8				
	販売単価	180.7	180.8	181.0	181.2	181.6	181.5	181.8	181.1				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】









【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】
(1)直近の週次動向(表⑤参照)
直近(11/2週)の販売個数はドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ (350～500ml):同105%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回った。(3品目合計販売個数は前年同期比90%以上、合計販売容量は同100%以上)。
(2)販売個数について、前週(10/26週)との比較では、ドリンクタイプと大容量タイプが増加した一方、個食タイプは減少した。
※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。**データ転用はご遠慮下さい。**

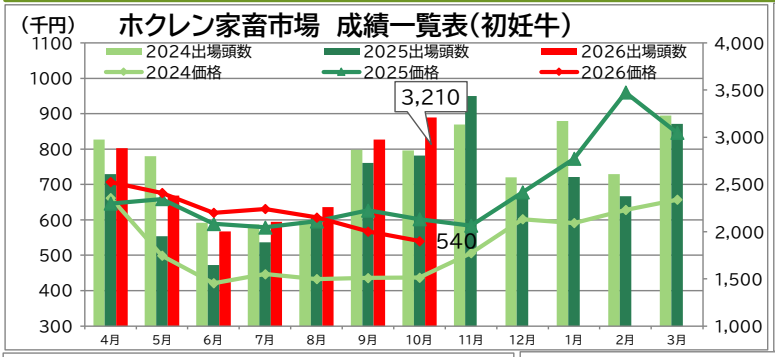
【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

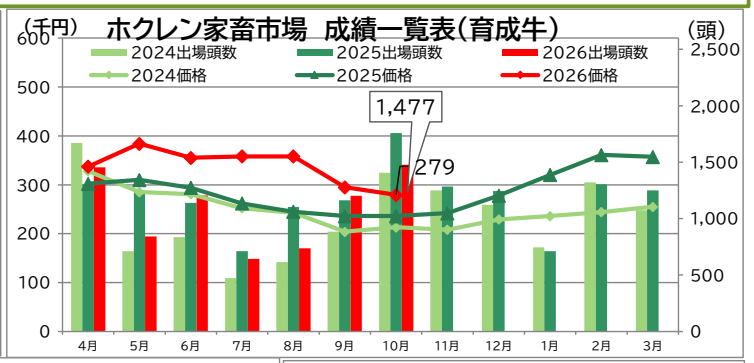
品目	9/14-	9/21-	9/28-	10/5-	10/12-	10/19-	10/26-	11/2-
ドリンクタイプ	→	↘	↘	→	→	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘
大容量タイプ	→	→	→	↗	↗	↑	↗	↗

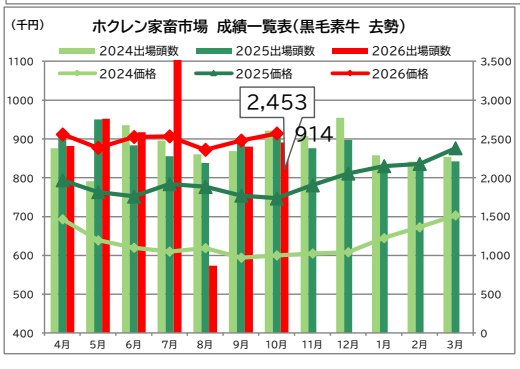
: 前年比90%未満
: 前年比90%以上100%未満
: 前年比100%以上105%未満
: 前年比105%以上110%未満
: 前年比110%以上120%未満
: 前年比120%以上

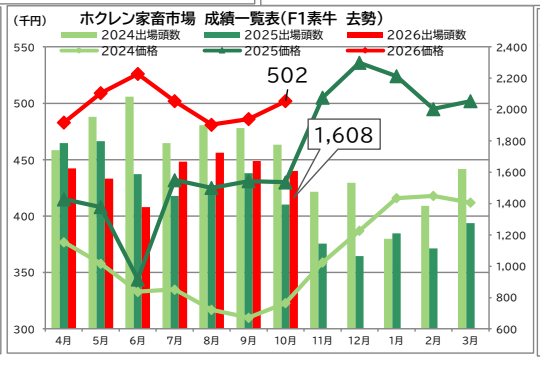
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

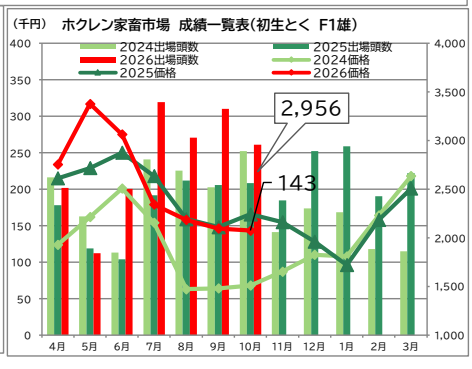
【家畜販売価格動向(税込)】
(1)10月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は540千円(前年同期比89.7%)、育成牛価格は279千円(同118.2%)、和牛素牛(去勢)価格914千円(同122.4%)、F1素牛(去勢)価格は502千円(同116.7%)。初妊牛は2カ月連続で50万円台、育成牛も2カ月連続で20万円台。ホル初生(雄)価格は66千円(同144.2%)と4か月連続で100千円を下回ったものの、16カ月連続で前年水準を上回った(グラフ無し)。
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同114.4%、育成牛:同84.0%、F1初生(雄):同115.3%、和牛素牛(去勢):同96.4%、F1素牛(去勢):同115.4%。
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx)



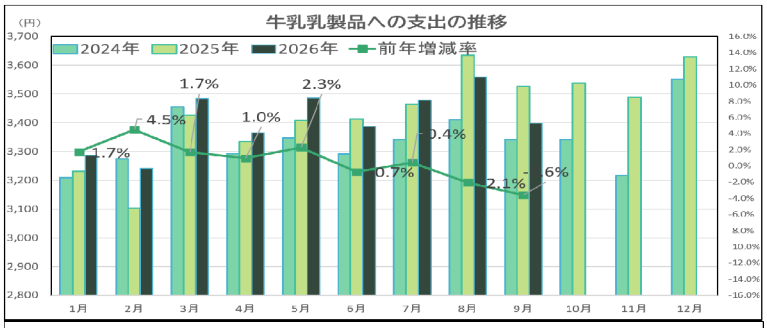


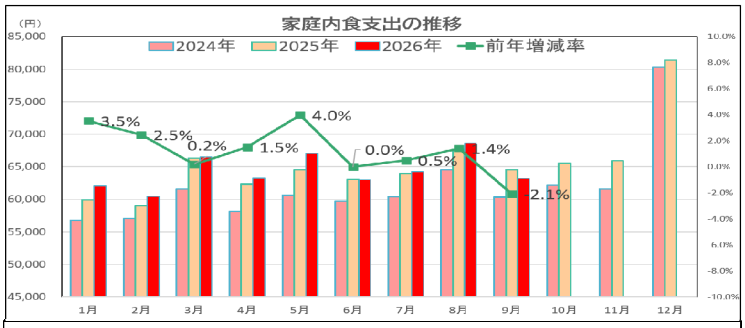


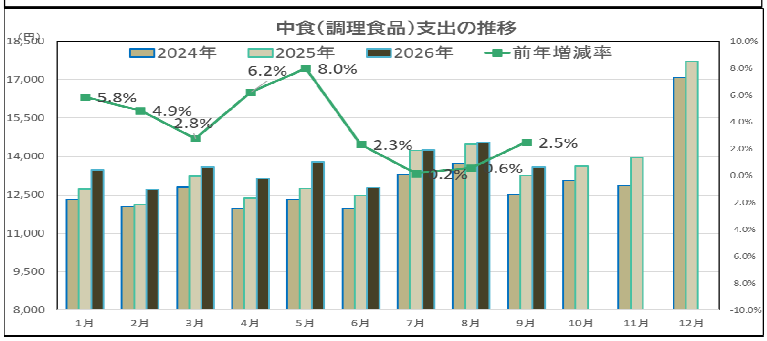


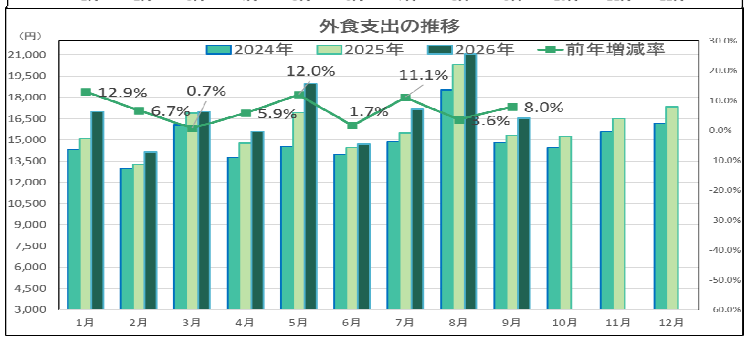


【家計支出の動向】
(1)9月の支出額前年比について、外食108.0%、中食102.5%、内食97.9%、食料全体への支出額は100.2%となった。
(2)牛乳乳製品の支出額は前年比96.4%(うち牛乳91.7%、乳製品99.6%)と2カ月連続で前年を下回り、牛乳は4か月連続で前年割れとなった。
(3)なお、購入量は、牛乳92.6%(1世帯当たり5.5㍑)と7か月連続で前年割れ。バターは3カ月連続で前年超え、チーズは7カ月連続で前年超えとなった。
※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)

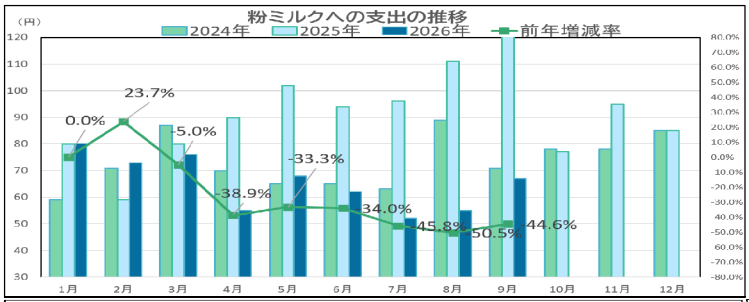


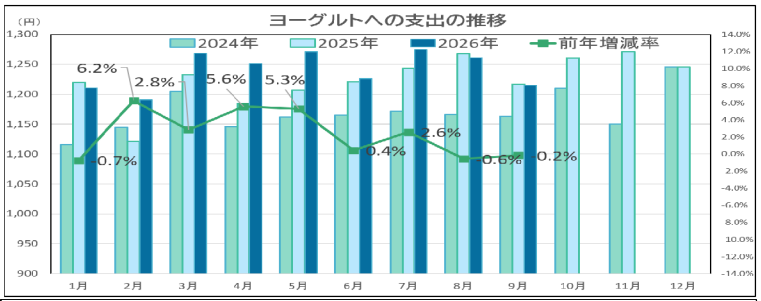


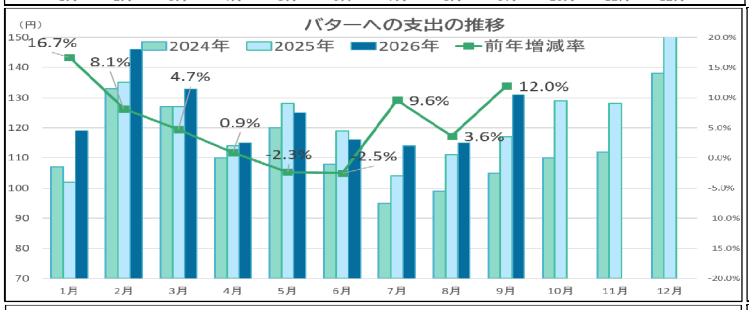


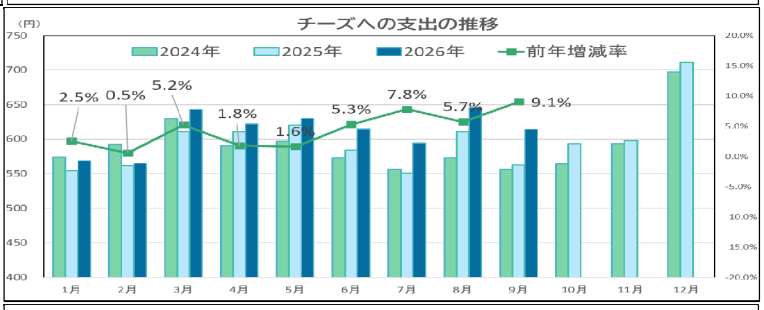


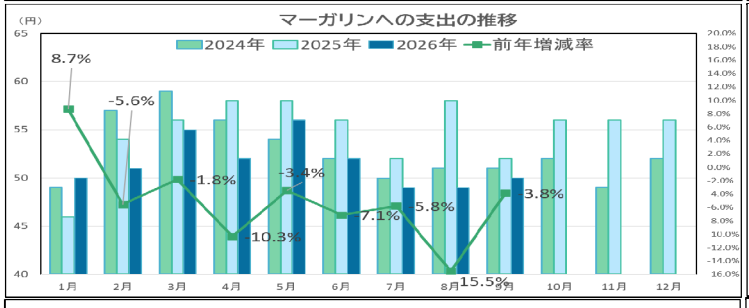
【参考:その他品目支出の動向】

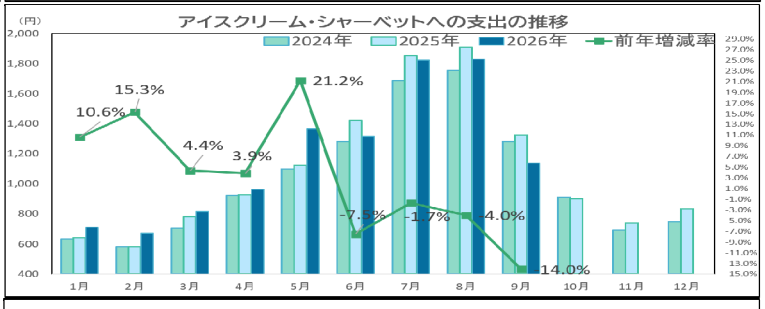


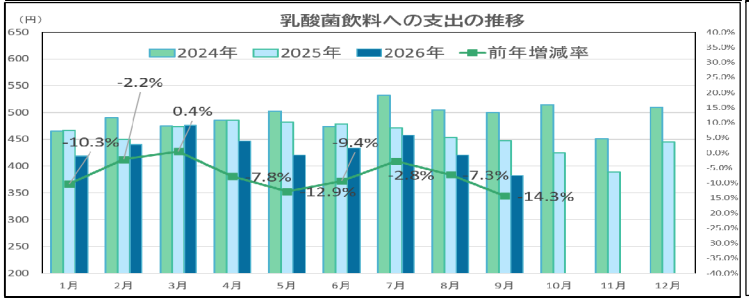


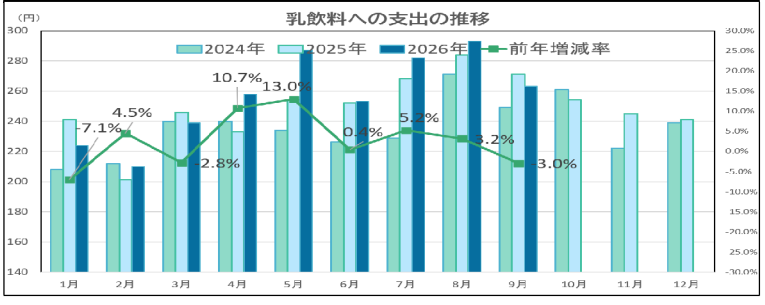


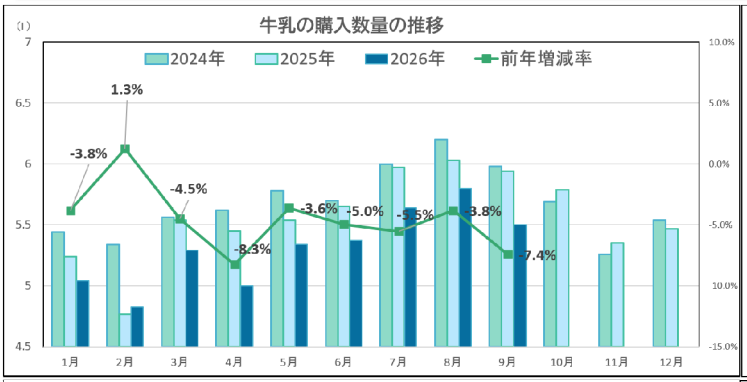


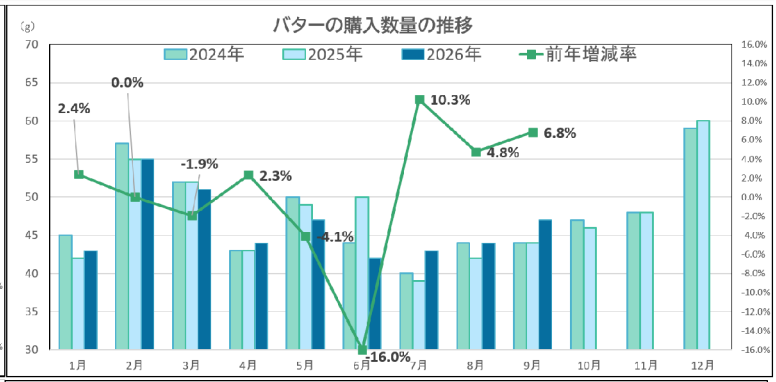


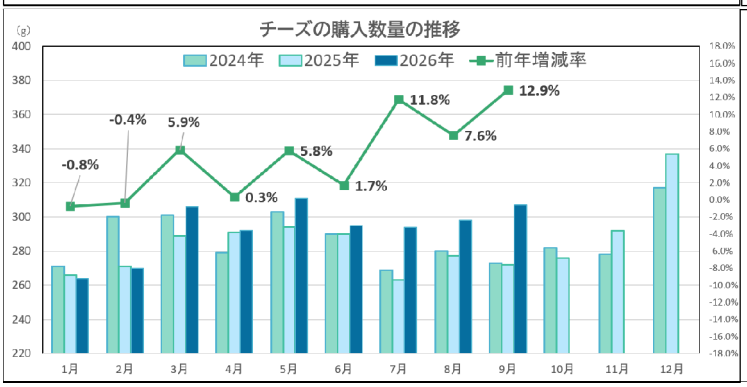


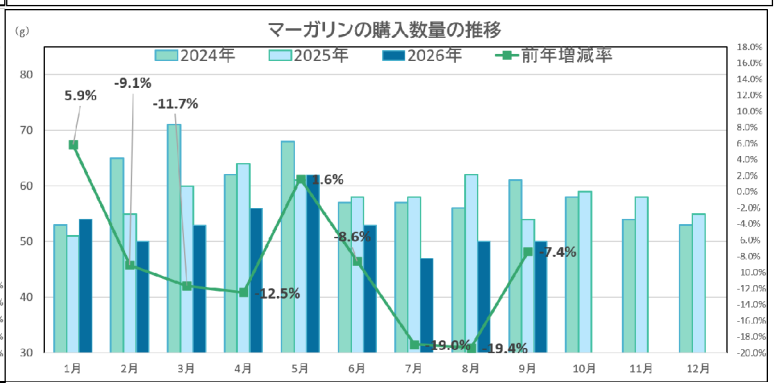












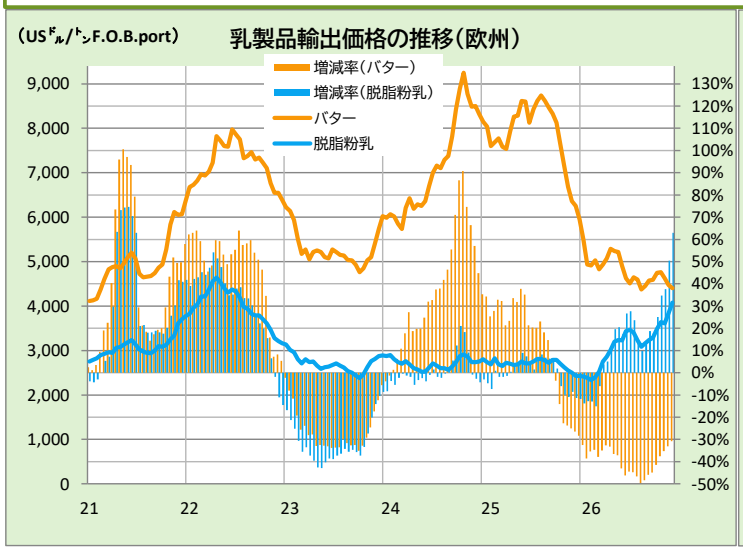
【乳製品輸出価格の動向】

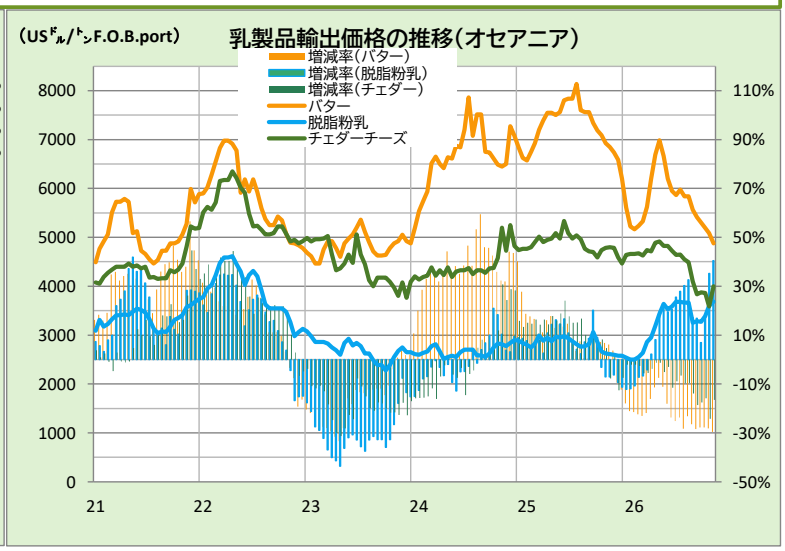
(1)直近の乳製品国際相場について(10月下旬)

・欧州:脱脂粉乳4,075ドル/ﾄﾝ、バター4,400ドル/ﾄﾝ中心。

・オセアニア:脱脂粉乳3,925ドル/ﾄﾝ、バター4,775ドル/ﾄﾝ、チェダーチーズは3,913ドル/ﾄﾝ中心

※出典:米国農務省(USDA)





※「2026年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」